

2016年12月

## 我が国の消費税が抱える課題

情報学部 経営情報学科 石田ゼミ  
B3p21127 松尾萌絵

### 【卒業論文概要】

消費税は現在国の歳入全体の約26%を占めており非常に重要なものである。日本は、増税を繰り返しているが国の借金である公債残高は約900兆円とGDPの約1.8年分に相当するまでに上り、消費税を上げない限り返せる見込みが極めて薄い。そこで本論文では、消費税導入の経緯や仕組みを知り、他国との暮らしを比較することにより、日本の消費税に対する課題として、どうすれば国が豊かになるのかを検討した。まず、日本の消費税がどのような経緯でできたのか、消費税の背景とその必要性を明らかにした。そしてその国の一般会計の歳入における消費税の位置づけを明らかにしたうえで、消費税の課税の仕組みをその課題とともに明らかにした。また、海外の消費税の在り方と比較した結果、主に北欧の消費税は高いがその分様々な社会福祉制度が充実しており、国民の生活はとても豊かであることが分かった。日本の消費税は海外とは反対に、複雑で理解が難しく、かつ社会福祉制度の充実が乏しいため消費税率が高くなることへの国民の不信感が高まっている。中央政府の消費税に対する考え方の違いで消費税を納税する国民の意思も変わるということ課題として提示した。